

第2期

秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略

(総合計画前期基本計画リーディングプロジェクト)

令和5(2023)年度評価報告書(案)

令和6年 月

1. 総合戦略の概要	4
2. 評価の趣旨及び方法	9
3. 具体的施策の評価	12
基本目標1 健康で安心して暮らせるプロジェクト	12
水とみどりを育む取組みの推進	14
人生100年時代の健康長寿に向けた取組みの推進	16
生きがいを持って安心して暮らせるまちづくりの推進	17
災害や犯罪に強いふるさとづくりの推進	19
基本目標1 達成状況の総括・外部評価	20
基本目標2 未来を拓く子育て・教育プロジェクト	21
安心して妊娠・出産できる環境づくりの推進	23
秦野で子育てして良かったと思える環境づくりの推進	24
次代を担う「はだのっ子」の確かな学力向上施策の推進	25
市民総ぐるみによる学校給食の推進	26
基本目標2 達成状況の総括・外部評価	27
基本目標3 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト	28
温泉を生かしたにぎわい創造の推進	30
学生の力を生かしたにぎわい創造の推進	31

文化財・桜・湧水を生かしたにぎわい創造の推進	32
丹沢登山や渋沢丘陵を生かしたにぎわい創造の推進	34
基本目標3 達成状況の総括・外部評価	35
基本目標4 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト	36
表丹沢魅力づくり構想の推進	38
地域特性を生かした企業誘致の推進	39
新たな人の流れを支えるネットワーク形成の推進	40
国道246号バイパス（厚木秦野道路）早期全線事業化・整備の促進	41
基本目標4 達成状況の総括・外部評価	42
基本目標5 新たな日常創造プロジェクト	43
新型コロナウイルスと共存した感染症対策と経済活動の推進	45
デジタル化の推進	46
基本目標5 達成状況の総括・外部評価	47
横断プロジェクト	48
移住・定住活性化	49
横断プロジェクト 達成状況の総括・外部評価	50
4. 外部評価の総括	51

秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下「総合戦略」という。)については、国からの要請に基づき、内部における進行管理の妥当性、客観性を担保するため、平成29年度から外部評価を取り入れたものです。

外部評価を行う秦野市行財政調査会は、「秦野市附属機関の設置等に関する条例」に規定されている市長の「附属機関」です。

秦野市行財政調査会は、市長からの諮問に基づき、総合戦略及び総合計画の進行管理、評価に関する事項を担っています。

外部評価にあたっては、秦野市総合計画はだの2030プラン前期基本計画(以下「総合計画前期基本計画」という。)において、リーディングプロジェクトとして位置づけた5つのプロジェクトと1つの横断プロジェクトを第2期総合戦略の基本目標としていることから、第2期総合戦略と総合計画前期基本計画を同時に評価しました。

1. 総合戦略の概要

2. 評価の趣旨及び方法

3. 具体的施策の評価

基本目標1 健康で安心して暮らせるプロジェクト

基本目標2 未来を拓く子育て・教育プロジェクト

基本目標3 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト

基本目標4 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト

基本目標5 新たな日常創造プロジェクト

横断プロジェクト 移住・定住活性化

4. 外部評価の総括

総合計画との一体的な取組みを推進

総合戦略は、「まち・ひと・しごと創生法」第10条に基づき、国の人口ビジョン及び総合戦略を勘案し、「秦野市人口ビジョン(令和3年3月改定)」で示した将来展望や目指すべき方向性の実現に向け、重点的に取り組むプロジェクトをまとめたものです。

第2期総合戦略では、総合計画前期基本計画のリーディングプロジェクトを基本目標に位置づけ、総合計画前期基本計画と一体的に取り組むことにより、地域資源を生かした活力あるまちづくりを目指しています。

また、計画期間についても、総合計画前期基本計画との整合を図るため同一の期間とし、令和3年度から令和7年度までの5年間としています。

総合計画前期基本計画
リーディングプロジェクト
『“住んでみよう・住み続けよう”
秦野みらいづくりプロジェクト』



第2期総合戦略
基本目標（プロジェクト）

人口減少と地域経済縮小の克服

地域資源を生かした活力あるまちづくりを推進するための施策として基本目標を定め、基本目標を達成するために講ずべき施策の基本的方向とその評価指標を設定しています。

1 基本目標(プロジェクト)

国の第2期総合戦略が定める政策分野を勘案して、市の第2期総合戦略における政策分野を定め、5年後の基本目標(実現すべき成果に係る数値目標KGI※1)を設定しています。

2 講ずべき施策に関する基本的方向

基本目標を達成するために講ずべき施策の基本的方向を示しています。

3 具体的な施策と客観的な指標

基本的方向に沿って、具体的な施策を記載するとともに、各施策の効果を客観的に検証できるようにするため、重要業績評価指標(KPI※2)を設定しています。

※1 KGI:Key Goal Indicatorの略称。目標を達成するための指標。

※2 KPI:Key Performance Indicatorの略称。施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標。

PDCAサイクルを重視した効果検証

「まち・ひと・しごと創生」においては、若者や女性への支援、そしてまちづくりまで多岐にわたる分野について、横断的に取り組むことが求められています。

そのため、事業の推進にあたっては、行政のみならず、市民や事業者、関係者等がそれぞれの役割と連携のもとで協働により取り組むことが必要です。

計画の進捗状況については、基本目標及び施策ごとにそれぞれ目標を設けるとともに、評価・検証し、必要に応じて取組内容を見直すPDCAサイクルを重視して、その実効性を高めます。

	目標の設定内容	効果検証時期	効果検証の方法
基本目標	実現すべき成果に係る数値目標(KGI)	計画期間終了後	有識者等による外部評価を経て、必要に応じて戦略の見直しを行う
施策	重要業績評価指標(KPI) ※ 検証による見直しもあり得る。	毎年	

基本目標1

健康で安心して暮らせるプロジェクト

- 水とみどりを育む取組みの推進
- 人生100年時代の健康長寿に向けた取組みの推進
- 生きがいを持って安心して暮らせるまちづくりの推進
- 災害や犯罪に強いふるさとづくりの推進

基本目標2

未来を拓く子育て・教育プロジェクト

- 安心して妊娠・出産できる環境づくりの推進
- 秦野で子育てして良かったと思える環境づくりの推進
- 次代を担う「はだのっ子」の確かな学力向上施策の推進
- 市民総ぐるみによる学校給食の推進

基本目標3

小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト

- 温泉を生かしたにぎわい創造の推進
- 学生の力を生かしたにぎわい創造の推進
- 文化財・桜・湧水を生かしたにぎわい創造の推進
- 丹沢登山や渋沢丘陵を生かしたにぎわい創造の推進

基本目標4

新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト

- 表丹沢魅力づくり構想の推進
- 地域特性を生かした企業誘致の推進
- 新たな人の流れを支えるネットワーク形成の推進
- 国道246号バイパス(厚木秦野道路)早期全線事業化・整備の促進

基本目標5

新たな日常創造プロジェクト

- 新型コロナウイルスと共存した感染症対策と経済活動の推進
- デジタル化の推進

横断プロジェクト

移住・定住活性化

1. 総合戦略の概要

2. 評価の趣旨及び方法

3. 具体的施策の評価

- 基本目標1 健康で安心して暮らせるプロジェクト
- 基本目標2 未来を拓く子育て・教育プロジェクト
- 基本目標3 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト
- 基本目標4 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト
- 基本目標5 新たな日常創造プロジェクト
- 横断プロジェクト 移住・定住活性化

4. 外部評価の総括

第2期戦略3年度目の評価

昨年度は、令和4年度の実施について外部評価を行い、行政調査会から「5つの基本目標と1つの横断プロジェクトの達成状況に対する市の総括は妥当であり、令和4年度の実施は概ね順調に進んでいる」との評価を得ました。

今年度は、昨年度の外部評価の指摘事項等を踏まえ、自己評価の改善に努めた上で内部評価に当たりました。

1 基本的背景

総合戦略では、国からの通知等により、学識経験者等の第三者の検証を求め、達成状況の評価の透明性、客観性及び公正性を確保することが必要とされています。

2 行政需要への的確かつ柔軟な対応

総合戦略で掲げた施策について、その進捗状況の効果や課題を検証し、必要な見直しを図るため、PDCAサイクルを構築し、変化し続ける行政需要に的確かつ柔軟に対応します。

3 市民等との共有

事業の推進にあたっては、行政のみならず、市民や事業者、関係者等がそれぞれの役割と連携のもとで協働により取り組んでいくことが必要であるため、評価結果を公表し市民等と共有します。

1 達成状況について

市では、各部局において、総合戦略の重要業績評価指標(KPI)単位の達成状況を評価したうえで、基本目標単位の達成状況を総括しました。

なお、達成状況の総括は、KPI単位の評価を基準として、右表の区分に応じたものとしています。

2 外部評価について

基本目標ごとに、市の達成状況の総括の内容が妥当であるか否かの評価を行いました。

【達成状況(KPI単位)の区分】

区分	評価の考え方
A	数値目標の達成率が100%以上
B	数値目標の達成率が75%以上100%未満
C	数値目標の達成率が50%以上75%未満
D	数値目標の達成率が50%未満

【達成状況(基本目標単位)の総括の区分】

区分	評価の考え方
順調に進んでいる	基本目標に掲げたKPI達成状況のA評価の割合が100%
概ね順調に進んでいる	基本目標に掲げたKPI達成状況のA評価とB評価の合計の割合が75%以上
やや遅れている	基本目標に掲げたKPI達成状況のA評価とB評価の合計の割合が50%以上75%未満
遅れている	基本目標に掲げたKPI達成状況のA評価とB評価の合計の割合が50%未満

1. 総合戦略の概要

2. 評価の趣旨及び方法

3. 具体的施策の評価

基本目標1 健康で安心して暮らせるプロジェクト

基本目標2 未来を拓く子育て・教育プロジェクト

基本目標3 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト

基本目標4 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト

基本目標5 新たな日常創造プロジェクト

横断プロジェクト 移住・定住活性化

4. 外部評価の総括

秦野らしい豊かな自然環境の中で、誰もが健康で生き生きと活躍し、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるまちづくりに取り組みます。

実現すべき成果に係る数値目標(KGI)

	R元(2019) 現状値		R7(2025) 目標値
■ 監視基準井戸の地下水位	121.8m	▶	121.6m
.....			
■ 平均自立期間 (日常生活動作が自立している期間の平均・暦年)	男性 83.12歳(R2) 女性 85.79歳(R2)	▶	男性 83.92歳 女性 86.28歳
.....			
■ 秦野警察署管内刑法犯認知件数(年間)	650件	▶	620件

基本目標 1 健康で安心して暮らせるプロジェクト | 水とみどりを育む取組みの推進

市民共有の財産である水とみどりを守り育て、生かすことにより、恵まれた自然環境と共生した秦野らしさのあるまちづくりを推進しています。

基本的方向に係る
達成状況の総括 ▶ **やや遅れています。**

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な事業の目的	現状値 (R元)	R4実績値	R5実績値 (A)	R5目標値 (B)	R5達成率 (A)／(B)	達成 状況	R5主な取組み事業等	R5の取組みが遅れて いる場合、その理由等	最終目標値 (R7)
水源の森林エリ アにおける森林 整備(奥山を除 く)面積	標高が概ね 300メートルを 超える水源エリ アでの適正な森 林管理を促進す る	26.97ha	40.81ha	47.79ha	75.00ha	63.7%	C	・ 森林所有者と締結した「協 力協約」に基づく森林整備 ・ 水源の森林づくり事業によ る補助(秦野市森林組合)	・ 当初整備を予定していた 森林所有者が整備を実施 できなくなったため。	125ha
くずはの家にお ける自主事業の 実施回数	生物多様性、自 然環境の現状に ついて学び、そ の保全・活用に 対する意識の向 上を目指す機会 として自主事業 を実施する	82回	88回	103回	85回	121.2%	A	・ くずはの家を中心とした自 然観察会の実施 ・ 自然保護及び緑化の推進 に関する普及啓発 ・ 自然観察指導員の養成講 座の実施	—	88回
秦野市の二酸化 炭素排出量	秦野市地球温暖 化対策実行計画 において掲げた 目標値(2013 年度比・2030 年度46%削減) を目指す	768千トン (H30実績)	705千トン (R2実績)	641千トン (R3実績)	736千トン	114.8%	A	・ デコ活(旧COOL CHOICE)の啓発普及 ・ ライトダウン、グリーンカー テンの実施 ・ 小・中学校における省エネ 教育プログラムの実施 ※ 削減目標であるため、達 成率を(B)／(A)で算出	—	720千トン

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な事業の目的	現状値 (R元)	R4実績値	R5実績値 (A)	R5目標値 (B)	R5達成率 (A)／(B)	達成 状況	R5主な取組み事業等	R5の取組みが遅れて いる場合、その理由等	最終目標値 (R7)
植樹祭、下草刈、 県民参加の森林 づくりなど森林 整備事業への市 民参加数	市民主体の植 樹・育樹等を通 じた市民による 森林づくりを推 進する	937人	807人	562人	1,100人	51.1%	C	・ 弘法山公園内、平沢地内での植樹の実施 ・ 表丹沢野外活動センター活動棟裏、頭高山の草刈りの実施 ・ 北小学校6年生児童の植樹体験	・ 植樹、育樹は森林内で行われており、駐車場等が整備されているわけではなく、その都度地形に合わせた人数を募集しているため。	1,150人
秦野名水ロゴ マークの使用件 数(累計) ※1_R6.3目標値変更	「秦野名水」の効 果的な普及啓発 を図る	87件	151件	160件	161件	99.4%	B	・ ホームページ等での周知	—	181件
市民一人1日当 たりのごみの排 出量(資源物を除 く) ※2_R5.3指標追加	持続可能な循環 型社会に向けて 再使用、資源化 を促進すると ともに、市民生活 や事業活動から 排出されるごみ の抑制を目指す	613g	593g	576g	606g	105.2%	A	・ ごみ減量、資源化及び分別 ルールの周知・啓発 ・ 生ごみ・食品ロス減量の推 進 ・ 環境教育・環境学習の推進 ※3 削減目標であるため、 達成率を(A)／(B)で算出	—	595g

※1 R4実績が目標を大きく上回ったことにより、R5以降目標値を再設定。【R5目標値】130件⇒161件、【R6目標値】145件⇒171件、【R7目標値】160件⇒181件

基本目標 1 健康で安心して暮らせるプロジェクト | 人生100年時代の健康長寿に向けた取組みの推進

人生100年時代を心身共に健康で安心して暮らせるよう、地域医療の充実・強化を図りながら健康長寿に向けた取組みを推進しています。

基本的方向に係る
達成状況の総括 ▶ やや遅れています。

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な事業の目的	現状値 (R元)	R4実績値	R5実績値 (A)	R5目標値 (B)	R5達成率 (A)／(B)	達成 状況	R5主な取組み事業等	R5の取組みが遅れて いる場合、その理由等	最終目標値 (R7)
未病センター健康相談会における利用者数	身近な場所で自身の健康状態を把握し、その結果に基づき健康づくりをする人を増やす	182人	124人	176人	240人	73.3%	C	・相談会(骨密度測定)と未病改善のセミナーの実施	・未病センターの周知が十分でなかったため。	260人
特定健康検査の受診率及び特定保健指導の利用率	特定検診、特定保健指導の受診率及び利用率の向上による健康長寿に向けた取組みを推進する	33.6% 14.4%	33.2% 12.8%	36.3% 15.1%	40.0% 26.0%	73.3% 90.8%	B	・集団検診実施 ・各種イベント等での啓発活動 ・市広報特集号による周知 ・未利用者に対する利用勧奨通知及び専門職による電話勧奨の実施	—	40.0% 26.0%
「週1回30分以上スポーツ・レクリエーション活動する市民」の割合	各種スポーツ大会の企画・実施を通じた生涯スポーツ活動の普及促進を図る	42.9%	36.6%	39.8%	57.5%	69.2%	C	・はだのチャレンジデー2023の開催(参加率アップ賞受賞) ・はだの丹沢水無川マラソン大会の開催 ・市民参加イベントの開催	・参加人数は増加してきているものの、新型コロナウイルスの影響から参加者数の回復が目標に至らなかったため。	65.0%
市内の就業看護職員数	医師会との情報共有や支援等を通じて市内で就業する看護職人材を確保する	1,516人	1,534人 (R2実績)	1,512人 (R4実績)	1,600人	94.5%	B	・修学等資金の貸与制度の周知	—	1,650人

基本目標 1 健康で安心して暮らせるプロジェクト | 生きがいを持って安心して暮らせるまちづくりの推進

誰もが住み慣れた地域で、生きがいを持ちながら安心して暮らせるよう、地域における人と人のつながりを大切にし、互いに助けあい、共に支えあうまちづくりを推進しています。

基本的方向に係る
達成状況の総括 ▶ **概ね順調に進んでいます。**

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な事業の目的	現状値 (R元)	R4実績値	R5実績値 (A)	R5目標値 (B)	R5達成率 (A)／(B)	達成 状況	R5主な取り組み事業等	R5の取り組みが遅れて いる場合、その理由等	最終目標値 (R7)
地域共生社会の実現に向けた福祉研修の実施回数 (年間)	地域住民相互の 支えあいによる 共助の取組みの 活性化等を通じ た「地域共生社会」の実現を目指す	— ※	3回	3回	2回	150.0%	A	・ 複合的な地域生活課題の解決に向けた研修の開催 ※ 研修がR3年度に開始されたため現状値(R元)を「-」とする	—	2回
要介護等認定率	介護予防等の取組みの強化による認定率の上昇抑制を図る	14.1%	15.0%	15.1%	15.9%	105.3%	A	・ 地域高齢者支援センターの機能強化 ・ 在宅医療・介護連携等の充実 ・ 安全・安心に暮らすための生活支援サービスの充実	—	17.0%
認知症サポーター養成者数	地域・職場・学校等に向けた「認知症への理解を深める普及啓発」によって、市民全体で認知症の人とその家族を支える基盤づくりを目指す	13,250人	15,097人	16,023人	20,000人	80.1%	B	・ 認知症サポーター養成講座の開催	—	24,000人

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な事業の目的	現状値 (R元)	R4実績値	R5実績値 (A)	R5目標値 (B)	R5達成率 (A)／(B)	達成 状況	R5主な取組み事業等	R5の取組みが遅れて いる場合、その理由等	最終目標値 (R7)
住民主体の通いの場への高齢者の参加者数	介護予防に資するサロン活動や体操を継続的に 行う住民の通いの場の充実を図る	4,892人	4,631人	5,668人	5,100人	111.1%	A	・ 通いの場の拡大と周知	—	5,200人

基本目標 1 健康で安心して暮らせるプロジェクト | 災害や犯罪に強いふるさとづくりの推進

市民の生命や財産を守り、安全・安心な暮らしを実現させるため、市民、事業者、行政が一体となった地域力や都市の安全性を強化する取組みを推進しています。

基本的方向に係る
達成状況の総括 ▶ 概ね順調に進んでいます。

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な事業の目的	現状値 (R元)	R4実績値	R5実績値 (A)	R5目標値 (B)	R5達成率 (A)／(B)	達成 状況	R5主な取組み事業等	R5の取組みが遅れて いる場合、その理由等	最終目標値 (R7)
防災訓練等の参加者数 ※1 R6.3目標値変更	地域防災体制の整備・強化のための防災訓練等の実施	— (3,749人※)	27,275人	36,568人	34,000人	107.6%	A	・ 地域での防災訓練や防災講習会等の開催 ※2 現状値(R元)には総合防災訓練の参加者が含まれない	—	36,000人
木造住宅の耐震相談会の開催回数(年間)	木造住宅の耐震改修促進のための相談会の実施	12回	11回	10回	12回	83.3%	B	・ 木造住宅の耐震改修促進のための相談会の実施	—	12回
管理不全空家の状態が改善された割合	防災、衛生、景観等において周辺の生活環境に悪影響を及ぼすおそれのある管理不全空家の防止解消に向けた対応を図る	60.0%	71.0%	72.8%	66.0%	110.3%	A	・ 「空家等の適正管理に関する条例」の施行、運用	—	70.0%

※1 R4実績が目標を大きく上回ったことにより、R5以降目標値を再設定。【R5目標値】15,000人⇒34,000人、【R6目標値】15,500人⇒35,000人、【R7目標値】16,000人⇒36,000人

市による達成状況の総括

概ね順調に進んでいる

重要業績評価指標(KPI)17項目のうち、A評価(8項目)及びB評価(5項目)の合計は、13項目(約76%)でした。

「生きがいを持って安心して暮らせるまちづくりの推進」及び「災害や犯罪に強いふるさとづくりの推進」では、A評価及びB評価の合計が100%となっており、「住民主体の通いの場への高齢者の参加者数」や「管理不全空家の改善割合」が目標値を大きく上回るなど、施策は概ね順調に進んでいます。

一方、「水とみどりを育む取組みの推進」及び「人生100年時代の健康長寿に向けた取組みの推進」では、C評価がそれぞれ2項目となり、森林整備に係る事業及び健康づくりに関する意識啓発に課題が生じていることから、事業内容や周知方法等の必要な見直しを行った上で、自然環境の保全及び市民の健康づくりに向けた取組みを推進します。

外部評価

市による達成状況の総括は妥当です

- ❑ 秦野市にとって、森林は非常に重要な資源です。森林整備事業の進捗及び参加者数に課題が表れているため、事業の進捗については、課題を分析の上で改善に向けた取組みを進め、事業の参加者数については、効果的な広報等により新規を含む参加者の確保に努める必要があります。
- ❑ 人生100年時代の健康長寿に向けた取組みの推進では、市民の健康に対する啓発が進んでいない課題が表れているため、取組手法の改善が必要です。
- ❑ 近年激甚化する大規模自然災害に対応するため、引き続き災害に強いふるさとづくりの推進への取組みが望まれます。

1. 総合戦略の概要

2. 評価の趣旨及び方法

3. 具体的施策の評価

基本目標1 健康で安心して暮らせるプロジェクト

基本目標2 未来を拓く子育て・教育プロジェクト

基本目標3 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト

基本目標4 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト

基本目標5 新たな日常創造プロジェクト

横断プロジェクト 移住・定住活性化

4. 外部評価の総括

結婚・妊娠・出産・育児への切れ目のない支援を行い、安心して子育てできる環境を整備するとともに、教育水準の改善・向上や中学校給食の完全実施を中心とした取組みにより、秦野の未来を担う子どもたちの生きる力を育む教育環境づくりに取り組みます。

実現すべき成果に係る数値目標(KGI)

R元(2019)
現状値

R7(2025)
目標値

■ 合計特殊出生率	1.12(H30)	▶	1.43
.....			
■ 全国学力・学習状況調査等における集計値 (平均正答率)	60.2%(全国63.8%)	▶	全国平均以上
.....			
■ 全国学力・学習状況調査等における集計値 (学習意欲)	60.4%	▶	68.0%
.....			
■ 全国学力・学習状況調査等における集計値 (非認知能力)	71.2%	▶	81.0%

基本目標2 未来を拓く子育て・教育プロジェクト | 安心して妊娠・出産できる環境づくりの推進

周産期医療及び保健体制の整備・充実などにより、安心して妊娠・出産ができる環境づくりを推進しています。

基本的方向に係る
達成状況の総括 ▶ **概ね順調に進んでいます。**

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な事業の目的	現状値 (R元)	R4実績値	R5実績値 (A)	R5目標値 (B)	R5達成率 (A)／(B)	達成 状況	R5主な取組み事業等	R5の取組みが遅れて いる場合、その理由等	最終目標値 (R7)
育てにくさを感じた時に、相談先を知っているなど、何らかの解決する方法を知っている保護者の割合(3歳6か月児健康診査時調査)	妊娠期から子育て期までの相談体制を整備し、親子の多様性に応じた継続支援の充実を図る	66.1%	65.6%	71.6%	70.0%	102.3%	A	・ 宿泊型の産後ケア開始 ・ 市内及び近隣の産科医療機関と連携した妊産婦支援の充実 ・ 妊娠届出時の先を見通せる応援プランの提示	—	75.0%
ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合(1歳6か月児健康診査時調査)	少子化・核家族化の進行、地域とのつながりの希薄化による妊産婦やその家族を支える力が弱くなってきている中での切れ目ないきめ細やかな支援を実施する	86.4%	82.8%	83.2%	87.0%	95.6%	B	・ 月齢に応じた発育・発達の確認 ・ 切れ目ない支援の場としての個別相談の実施	—	87.5%

基本目標2 未来を拓く子育て・教育プロジェクト | 秦野で子育てして良かったと思える環境づくりの推進

結婚から育児までの切れ目のない支援により、地域で安心して子育てができる環境づくりを推進しています。

基本的方向に係る
達成状況の総括 ▶ 概ね順調に進んでいます。

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な事業の目的	現状値 (R元)	R4実績値	R5実績値 (A)	R5目標値 (B)	R5達成率 (A)／(B)	達成 状況	R5主な取り組み事業等	R5の取り組みが遅れて いる場合、その理由等	最終目標値 (R7)
定員超過により 保育所等に入所 できない児童の 数 (4月1日時点)	仕事と子育てを 両立し、安心し て子育てができ る環境づくりに より待機児童の 解消を目指す	9人	0人	0人	0人	100.0%	A	・1歳児の保育士配置に係る 補助基準の見直し ・保育士確保策として就労促 進給付金の交付 ・公立こども園の改修及び民 間保育所等への施設整備補 助	—	0人
地域子育て支援 拠点事業の箇所 数	新たな地域子育 て支援拠点を増 やし、子育て支 援の充実を図る	8箇所	10箇所	10箇所	9箇所	111.1%	A	・子育てに関する不安や悩み を相談できる場の提供	—	9箇所
特に児童虐待の リスクが高い要 保護児童に対す る個別ケース検 討会議の開催割 合	児童虐待の発生 予防と早期発 見・早期対応を 目指した個別 ケース検討会議 を開催する	80.0%	80.0%	85.0%	95.0%	89.5%	B	・所属機関との協議の場の確 保 ・保育所等を利用しない4.5 歳児の支援の開始 ・親支援講座(連続講座)を実 施した。	—	100.0%
ひとり親家庭等 の保護者の資格 取得後の就職状 況	ひとり親家庭の 保護者の就業や 就職活動を側面 から支援し、早 期自立を目指す	100.0%	100.0%	89.0%	100.0%	89.0%	B	・自立支援教育訓練給付金の 給付 ・高等職業訓練促進給付金の 給付 ・母子・父子自立支援員による ひとり親家庭に対する相談	—	100.0%

基本目標2 未来を拓く子育て・教育プロジェクト | 次代を担う「はだのっ子」の確かな学力向上施策の推進

子どもたちの新たな学びのスタイルを構築するとともに、次世代の教育を見据えた環境整備により、「はだのっ子」の確かな学力向上に向けた取組みを推進しています。

基本的方向に係る
達成状況の総括 ▶ 概ね順調に進んでいます。

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な事業の目的	現状値 (R元)	R4実績値	R5実績値 (A)	R5目標値 (B)	R5達成率 (A)／(B)	達成 状況	R5主な取組み事業等	R5の取組みが遅れて いる場合、その理由等	最終目標値 (R7)
保護者アンケートにおいて、園小中一貫教育が推進されていると回答した人の割合	園小中一貫教育を推進し、教育水準の改善向上のエビデンスとするため、学びの連続性を実感できる体制づくりを推進する	67.0%	80.1%	77.4%	72.0%	107.5%	A	・園小中一貫教育の今後についての研究 ・南が丘中学校区をモデル地区とした、マネジメントやカリキュラム研究の実施 ・2地区(北及び西小学校区)での園小接続カリキュラムに係る研究の実施	—	77.0%
学校運営協議会の設置校数	地域とともにある学校づくりに向けた学校運営協議会の設置によりコミュニティ・スクールを推進する	7校	16校	18校	14校	128.6%	A	・CSディレクターの配置及び地域での講演会等の開催 ・地域学校協働本部との適切な連携の在り方についての研究・実践 ・地域住民の教育活動への参加・支援体制の構築	—	22校
授業でICTを効果的に活用できていると回答した教職員の割合(文科省調査)	学校における働き方改革を含め、教職員がICTの効果的な活用を実感できる体制づくりを推進する	74.4%	78.8%	80.9%	90.0%	89.9%	B	・授業支援アプリやAIを搭載した学習ドリルアプリの継続 ・ICT支援員による学校巡回支援の実施 ・ICTマイスター制度の継続	—	100.0%

基本目標2 未来を拓く子育て・教育プロジェクト | 市民総ぐるみによる学校給食の推進

中学校給食の完全実施を契機とし、商業・農畜産業などの地場産業との連携による地産地消や地域に根差した食育の推進により、市民総ぐるみの学校給食を推進しています。

基本的方向に係る
達成状況の総括 ▶ 概ね順調に進んでいます。

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な事業の目的	現状値 (R元)	R4実績値	R5実績値 (A)	R5目標値 (B)	R5達成率 (A)／(B)	達成 状況	R5主な取組み事業等	R5の取組みが遅れて いる場合、その理由等	最終目標値 (R7)
学校給食食材における秦野産野菜の使用割合	対象品目において秦野産野菜の年間総使用量割合の向上を目指す	37.2%	32.7%	34.7%	40.0%	86.8%	B	・ふるさと秦野食育DAY及び かながわ産品デーによる秦 野産野菜の使用 ・地域生産者組合の出前授業 の実施 ・特産品の収穫体験及び特産 品を使用した給食提供	—	50.0%
地産地消応援サ ポーター登録店 舗数	消費、流通、販 売面から地産地 消推進に参画す る登録店舗数の 増加を目指す	47店	50店	49店	53店	92.5%	B	・「はだの農産物応援サポー ター店」PRのための店内表 示看板を作成 ・広報はだのによる制度の周 知	—	55店

市による達成状況の総括 概ね順調に進んでいる

重要業績評価指標(KPI)11項目のうち、A評価(5項目)及びB評価(6項目)の合計は、11項目(100%)でした。

施策は概ね順調に進んでおり、特に「定員超過により保育所等に入所できない児童の数」が0(ゼロ)人を前年度から継続して達成するなど、取組みの成果が表れている事業が多くあるため、引き続き、切れ目のない支援に努めます。

外部評価 市による達成状況の総括は妥当です

- すべての重要業績評価指標(KPI)が概ね順調に進んでいることを評価します。
- 一方、当初値(R元)や前年と比較して実績値が下がっている項目があるため、その原因を分析し、改善に向けた取組みを進める必要があります。

1. 総合戦略の概要

2. 評価の趣旨及び方法

3. 具体的施策の評価

基本目標1 健康で安心して暮らせるプロジェクト

基本目標2 未来を拓く子育て・教育プロジェクト

基本目標3 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト

基本目標4 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト

基本目標5 新たな日常創造プロジェクト

横断プロジェクト 移住・定住活性化

4. 外部評価の総括

「温泉」、「大学」、「まちの中心地、文化歴史」、「表丹沢」など、小田急線4駅それぞれの魅力ある地域資源や特色を生かした、楽しい「まち歩き」の仕掛けづくりなどにより、活力あふれるにぎわい創造に取り組みます。

実現すべき成果に係る数値目標(KGI)

	R元(2019) 現状値		R7(2025) 目標値
<div></div> 4駅の乗降客数の合計(1日平均)	123,058人	▶	123,000人
.....			
<div></div> 定住意向 (住み続けたい、どちらかと言えば住み 続けたいと考えている市民の割合)	79.3%(R2)	▶	95.0%

基本目標3 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト | 温泉を生かしたにぎわい創造の推進

大山と鶴巻温泉駅を結ぶバスの運行など、自治会、商店会等と連携し、温泉地としての魅力を生かした駅周辺のにぎわいづくりを推進しています。

基本的方向に係る
達成状況の総括 ▶ **順調に進んでいます。**

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な事業の目的	現状値 (R元)	R4実績値	R5実績値 (A)	R5目標値 (B)	R5達成率 (A)／(B)	達成 状況	R5主な取組み事業等	R5の取組みが遅れて いる場合、その理由等	最終目標値 (R7)
鶴巻温泉年間観光客数	弘法山公園の観光資源としての価値を最大限引き出し、東海大学前駅、秦野駅周辺を含めた地域活性化に向けた魅力あるまちづくりを目指す	173,950人	141,885人	183,788人	173,950人	105.7%	A	・大山～鶴巻温泉駅間のバス季節運行の期間拡大 ・バス季節運行に合わせたイベントの実施 ・YouTube動画を活用した広報宣伝の実施	—	180,977人
弘法の里湯年間利用者数	鶴巻温泉街の観光振興と地域活性化を図る	147,243人	120,256人	174,330人	147,243人	118.4%	A	・キャッシュレス決済機能の導入 ・誘客イベントやキャンペーンの実施 ・YouTube動画を活用した広報宣伝の実施	—	153,191人

基本目標3 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト | 学生の力を生かしたにぎわい創造の推進

駅利用者の利便性や安全性を高めるとともに、大学等と連携し、多くの学生が集まる駅という特色を生かしたにぎわいづくりを推進しています。

基本的方向に係る
達成状況の総括 ▶ **やや遅れています。**

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な事業の目的	現状値 (R元)	R4実績値	R5実績値 (A)	R5目標値 (B)	R5達成率 (A)／(B)	達成 状況	R5主な取組み事業等	R5の取組みが遅れて いる場合、その理由等	最終目標値 (R7)
学生と連携した 商店街イベント の参加者数	商店街と学生が 連携したイベン トの実施による にぎわい創造を 推進する	7,000人	2,734人	3,600人	7,350人	49.0%	D	・ 東海大学駅前商店会協同組 合及び東海大学湘南学生会 によるおおね秋まつりの開 催 ・ 歳末売り出し(学生主催によ るクリスマスU- night2023の実施)	・ イベントが再開してき ているものの、新型感 染症の影響から参加 者数の回復が目標に 至らなかったため。	7,700人
東海大学前駅の 乗降者数(1日平 均)	東海大学前駅周 辺のにぎわい創 造による乗降者 数の増加を図る	38,909人	32,462人	35,209人	38,000人	92.7%	B	・ 4駅にぎわい創造検討懇話 会(東海大学前駅)の開催	—	38,000人
商店街区域内の 新規開業店舗数 (商店街空き店 舗活用事業補助 金活用店舗数) ※ R5.3指標追加	空き店舗を活用 した新規開業を 促し、商店街の 活性化を図る	9件	5件	4件	5件	80.0%	B	・ 市内の商店街にある空き店 舗を活用して新たに事業を 行うものに対する支援	—	5件

基本目標3 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト | 文化財・桜・湧水を生かしたにぎわい創造の推進

良好な市街地形成に加え、まちの中心として発展した歴史や湧水、文化、桜並木などの地域資源を生かしたにぎわいづくりを推進しています。

基本的方向に係る達成状況の総括 ▶ 概ね順調に進んでいます。

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な事業の目的	現状値 (R元)	R4実績値	R5実績値 (A)	R5目標値 (B)	R5達成率 (A)／(B)	達成 状況	R5主な取り組み事業等	R5の取り組みが遅れて いる場合、その理由等	最終目標値 (R7)
震生湖年間観光 客数 ※1 R6.3目標値変更	震生湖の魅力を磨 き上げ、秦野駅か らのハイカー等を 増加させることで 駅周辺のにぎわい につなげる	39,089人	58,998人	54,450人	60,700人	89.7%	B	・老朽化が進む太鼓橋の架け 替えに向けた詳細設計の実 施 ・散策路の補修 ・危険樹木の伐採	—	64,300人
弘法山公園年間 観光客数 ※2 R6.3目標値変更	秦野駅と鶴巻温泉 駅、東海大学前駅 を結ぶ周遊観光拠 点として、世代を 問わず低山登山や ハイキングを楽し めるよう、桜や展 望台、ハイキング コースなど観光資 源の適正な維持管 理や、弘法山周辺 の活性化に資する 取り組みを推進する	344,382人	493,924人	501,356人	508,700人	98.6%	B	・「弘法山公園利活用方針」の 策定 ・YouTube動画を活用した 広報宣伝の実施 ・ニーズ調査を目的とした弘 法山マルシェの開催	—	539,600人

※1 R4実績が目標を大きく上回ったことにより、R5以降目標値を再設定。【R5目標値】39,089人⇒60,700人、【R6目標値】40,668人⇒62,500人、【R7目標値】40,668人⇒64,300人

※2 R4実績が目標を大きく上回ったことにより、R5以降目標値を再設定。【R5目標値】344,382人⇒508,700人、【R6目標値】358,295人⇒523,900人、【R7目標値】358,295人⇒539,600人

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な事業の目的	現状値 (R元)	R4実績値	R5実績値 (A)	R5目標値 (B)	R5達成率 (A)／(B)	達成 状況	R5主な取組み事業等	R5の取組みが遅れて いる場合、その理由等	最終目標値 (R7)
名水はだの富士 見の湯年間来訪 者数 ※ R6.3目標値変更	弘法山公園の観光 資源としての価値 を最大限引き出し、 東海大学前駅、秦 野駅周辺を含めた 地域活性化に向け た魅力あるまちづ くりを目指す	76,403人	111,084人	156,795人	114,400人	137.1%	A	<ul style="list-style-type: none">第3期指定管理期間 (R5.10～)の指定管理者と の協定締結大手温泉情報サイトを活用し た広報宣伝誘客イベントやキャンペーン の実施	—	121,300人

※ R4実績が目標を大きく上回ったことにより、R5以降目標値を再設定。【R5目標値】76,403人⇒114,400人、【R6目標値】79,489人⇒117,800人、【R7目標値】79,489人⇒121,300人

基本目標3 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト | 丹沢登山や渋沢丘陵を生かしたにぎわい創造の推進

表丹沢や渋沢丘陵への玄関口として多くの登山者やハイカーが訪れるため、商店会や関係団体と連携し、まちの魅力発信とにぎわいづくりを推進しています。

基本的方向に係る
達成状況の総括 ▶ 概ね順調に進んでいます。

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な事業の目的	現状値 (R元)	R4実績値	R5実績値 (A)	R5目標値 (B)	R5達成率 (A)／(B)	達成 状況	R5主な取組み事業等	R5の取組みが遅れて いる場合、その理由等	最終目標値 (R7)
頭高山年間来訪者数	にぎわいの創造につなげるため、ハイカーや観光客が快適に過ごせるようハイキングコースなど観光資源の整備や維持管理に努める	7,684人	4,930人	6,634人	7,684人	86.3%	B	・山頂の眺望確保のための修景伐採 ・散策路のウッドチップ舗装 ・憩いの場の快適な環境の維持	—	7,994人
大倉地区年間観光客数	表丹沢魅力づくり構想のもと、表丹沢において気軽に山歩きが体験できる環境整備を進め誘客促進を図る	332,165人	341,518人	427,882人	332,165人	128.8%	A	・テント泊と登山を組み合わせた体験イベントを実施	—	345,584人
秦野丹沢まつり来訪者数	「山に親しむことができる祭り」として山開き式やイベントを実施する	56,000人	— ※	54,000人	56,000人	96.4%	B	・集中登山及びステージゲストへのインフルエンサー起用 ・クラウドファンディングの実施 ※ R4年度は新型コロナウイルスの影響によりイベントが中止	—	58,262人

市による達成状況の総括 **概ね順調に進んでいる**

重要業績評価指標(KPI)11項目のうち、A評価(4事業)及びB評価(6事業)の合計は、10事業(約91%)でした。

施策は概ね順調に進んでいますが、「学生と連携した商店街イベントの参加者数」では目標値を大きく下回っているため、引き続き、商店街が実施する事業への支援を通じた学生参加の取り組みを推進します。

外部評価 **市による達成状況の総括は妥当です**

- ❑ 新型コロナウイルスの影響により落ち込んだ観光客数が増加しており、取組みの効果が出ていると感じます。特に温泉の客数が大幅に伸びていることを高く評価します。
- ❑ 一方、「学生と連携した商店街イベントの参加者数」の達成状況に遅れが生じています。観光客数の増加を追い風として、遅れの改善、駅のにぎわいや商店街振興につながることを期待します。

1. 総合戦略の概要

2. 評価の趣旨及び方法

3. 具体的施策の評価

基本目標1 健康で安心して暮らせるプロジェクト

基本目標2 未来を拓く子育て・教育プロジェクト

基本目標3 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト

基本目標4 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト

基本目標5 新たな日常創造プロジェクト

横断プロジェクト 移住・定住活性化

4. 外部評価の総括

新東名高速道路の開通を本市発展の絶好の機会と捉え、産業・観光振興の両面から最大活用を図るとともに、国道246号バイパスの早期全線事業化・整備の促進に取り組んでいます。

実現すべき成果に係る数値目標(KGI)

	R元(2019) 現状値		R7(2025) 目標値
<div></div> 年間観光客数	4,472,000人	▶	4,652,000人
.....			
<div></div> 観光客の年間消費額	59億1,800万円	▶	61億5,700万円

基本目標4 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト | 表丹沢魅力づくり構想の推進

表丹沢における農林業、観光、文化、歴史、スポーツなど、広範な分野の地域資源を磨き、つなげ、新たに触れる機会を増やし、本物の魅力を見つけ出せる表丹沢とすることにより、交流人口の増加と地域活性化を推進しています。

基本的方向に係る
達成状況の総括 ▶ やや遅れています。

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な事業の目的	現状値 (R元)	R4実績値	R5実績値 (A)	R5目標値 (B)	R5達成率 (A)／(B)	達成 状況	R5主な取り組み事業等	R5の取り組みが遅れて いる場合、その理由等	最終目標値 (R7)
表丹沢の魅力発信WEBサイトへの年間アクセス件数 ※1 R6.3指標変更	表丹沢の観光スポット等の情報発信するWEBサイトの運営	65,797件	114,789件	163,575件	110,000件	148.7%	A	・表丹沢ツーリズム(イベント)の情報発信 ・SNSを活用したキャンペーンの実施	—	130,000件
表丹沢野外活動センター年間利用者数	青少年の育成活動や里地里山保全活動を中心とした利用のほか、更なる活用を促進する	11,266人	7,693人	11,870人	15,000人	79.1%	B	・指定管理者による管理運営の開始 ・いろいろ棟での宿泊やキャッシュレス決済の導入 ・各種体験プログラムの実施	—	17,000人
ヤビツ峠レストハウス年間利用者数	森林、里地里山、観光の連携事業を展開するための拠点施設として、交流人口の増加と市内消費を生み出し、地域所得の向上や観光振興、アウトドア活動やグリーンツーリズムが盛んな地域イメージの確立を図る	— ※2	13,152人	13,208人	18,250人	72.4%	C	・市によるトレイルランイベントの実施 ・施設管理者による各種アクティビティイベントの実施 ・施設管理者による秦野産の野菜や丹沢の植物を活用した商品開発 ※2 R3年に開設されたため現状値(R元)を「-」とする	・施設の広報が十分でなかったため。	18,987人

※1「山旅」に関する情報を発信していた地域情報サイト「レアリア」のアクセス件数から、令和4年8月に公開を開始した表丹沢総合ホームページ『OMOTAN』のアクセス数に変更

基本目標4 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト | 地域特性を生かした企業誘致の推進

新東名高速道路等のネットワークや地域特性を生かした新たな雇用の創出につながる周辺への企業誘致を推進しています。

基本的方向に係る
達成状況の総括 ▶ **遅れています。**

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な事業の目的	現状値 (R元)	R4実績値	R5実績値 (A)	R5目標値 (B)	R5達成率 (A)／(B)	達成 状況	R5主な取組み事業等	R5の取組みが遅れて いる場合、その理由等	最終目標値 (R7)
新規立地及び施設再整備企業数 (企業誘致条例 の優遇措置適用 企業数)(年間)	本市の地域特性 を生かした企業誘 致及び市内既存 企業の施設再整 備を図る	3社	1社	1社	2社	50.0%	C	・ 県、金融機関と連携した情報 収集 ・ 制度の周知	・ 制度の周知が十分で なかったため。	2社

基本目標4 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト | 新たな人の流れを支えるネットワーク形成の推進

スマートインターチェンジから市街地へのアクセス性を高めるなど、新東名高速道路開通に伴う新たな人の流れを支えるネットワーク形成を推進しています。

基本的方向に係る
達成状況の総括 ▶ **概ね順調に進んでいます。**

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な事業の目的	現状値 (R元)	R4実績値	R5実績値 (A)	R5目標値 (B)	R5達成率 (A)／(B)	達成 状況	R5主な取組み事業等	R5の取組みが遅れて いる場合、その理由等	最終目標値 (R7)
構想路線(都市 計画道路 菩提 横野線(1期区 間)の整備進捗 状況 ※ R6.3目標値変更	新東名高速道路 の供用開始に伴 い、SICから中心 市街地へのアクセ ス性を高める	0.0%	5.0%	8.1%	10.0%	81.0%	B	・用地買収の実施 ・詳細設計委託業務の実施	—	55.0%

※ 事業計画の変更により、新たな事業計画に基づきR5以降目標値を再設定。【R5目標値】 85.0%⇒10.0%、【R6目標値】100.0%人⇒25.0%、【R7目標値】100.0%⇒55.0%

基本目標4 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト | 国道246バイパス（厚木秦野道路）早期全線事業化・整備の促進

県、周辺自治体と連携し、国道246号バイパスの建設促進や未事業化区間の早期事業化を促進しています。

基本的方向に係る
達成状況の総括 ▶ 順調に進んでいます。

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な事業の目的	現状値 (R元)	R4実績値	R5実績値 (A)	R5目標値 (B)	R5達成率 (A)／(B)	達成 状況	R5主な取組み事業等	R5の取組みが遅れて いる場合、その理由等	最終目標値 (R7)
早期全線事業 化・整備の促進 に係る要望回数	246号バイパス の建設促進や未 事業化区間の早 期事業化に向け た国県等への要 望を行う	4回	4回	4回	4回	100.0%	A	・ 国道246号バイパス建設促 進協議会による要望(夏季・ 秋季) ・ 県の施策、予算、制度等に対 する要望 ・ 市長会(県・全国)による要望	—	4回

市による達成状況の総括 やや遅れている

重要業績評価指標(KPI)6項目のうち、A評価(2事業)及びB評価(2事業)の合計は、4事業(約67%)でした。
また、「ヤビツ峠レストハウス年間利用者数」では、利用数が前年度から横ばいの状況にあるため、広報宣伝やイベント等を積極的に行い、新規利用者の獲得に向けた取組みを推進します。

外部評価 市による達成状況の総括は妥当です

- ❑ 「ヤビツ峠レストハウス年間利用者数」の達成状況に遅れが生じています。目標とする利用者数と実績との乖離の要因に係る分析と対策の検討が必要です。
- ❑ 企業の新規立地及び施設再整備への支援制度は、周知不足により企業の活用につながっていないことが懸念されるため、より効果的な周知が必要です。

1. 総合戦略の概要

2. 評価の趣旨及び方法

3. 具体的施策の評価

基本目標1 健康で安心して暮らせるプロジェクト

基本目標2 未来を拓く子育て・教育プロジェクト

基本目標3 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト

基本目標4 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト

基本目標5 新たな日常創造プロジェクト

横断プロジェクト 移住・定住活性化

4. 外部評価の総括

新型コロナウイルスの収束を見据え、市民の「健康と医療」、「日々の暮らし」、「地域経済」を守る3本柱での対策を充実させるとともに、スマート自治体への転換やデジタル化を推進し、新たな日常の創造に取り組めます。

実現すべき成果に係る数値目標(KGI)

	R元(2019) 現状値		R7(2025) 目標値
■ 標準財政規模に対する実質収支と財政調整基金現在高の割合(適正な実質収支比率及び財政調整基金現在高比率の確保)	14.2%	▶	15.0%
.....			
■ 各種手続のオンライン化率	34.0%	▶	100.0%

基本目標 5 新たな日常創造プロジェクト | **新型コロナウイルスと共存した感染症対策と経済活動の推進**

感染症から市民の健康を守るとともに、新たな日常における日々の暮らしや地域経済を守る施策を推進しています。

基本的方向に係る
達成状況の総括 ▶ **順調に進んでいます。**

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な事業の目的	現状値 (R元)	R4実績値	R5実績値 (A)	R5目標値 (B)	R5達成率 (A)／(B)	達成 状況	R5主な取組み事業等	R5の取組みが遅れて いる場合、その理由等	最終目標値 (R7)
工業統計調査における、従業員4人以上の事業所の1年間の製造品出荷額等	新型コロナウイルス感染症の拡大による影響を踏まえ、平成25年度現状値と同額以上を目指す	4,402億円	4,006億円 (R3年実績)	4,635億円 (R4年実績)	4,402億円	105.3%	A	<ul style="list-style-type: none">企業の事業継続を支援するための取組みを実施利子補給を拡充支援するとともに信用保証料を補助	—	4,402億円

あらゆる市役所業務でのICTの積極的活用により、スマート自治体への転換やデジタル化を推進しています。

基本的方向に係る
達成状況の総括 ▶ 概ね順調に進んでいます。

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な事業の目的	現状値 (R元)	R4実績値	R5実績値 (A)	R5目標値 (B)	R5達成率 (A)／(B)	達成 状況	R5主な取組み事業等	R5の取組みが遅れて いる場合、その理由等	最終目標値 (R7)
市ホームページへの年間アクセス件数 ※1 R6.3目標値変更	市民との情報共有や市のPRを図るため、閲覧性や検索性の向上と魅力的な内容の充実を図ることによるアクセス数の増加を目指す	797万件	1,035万件	938万件	812万件	115.5%	A	・ホームページの内容の充実 ・SNSの内容の見直し	—	950万件
ICTの活用により削減された職員の事務作業時間(累計)	定型的な業務に対して、業務プロセスの効率化、非効率な業務時間の短縮等によるコスト削減などを目的に、RPAによる業務自動化を導入する	— ※	1,619時間	3,113時間	3,300時間	94.3%	B	・RPA実行環境を5業務追加(累計13業務での運用) ※ R2年にRPAの運用が開始されたため現状値(R元)を「-」とする	—	7,350時間
LINE友だち登録数 ※2 R6.3目標値変更	防災情報や感染症関連情報イベント情報など、緊急情報や暮らしに役立つ情報を発信し、市民の情報取得の利便性向上を図る	— ※	23,542人	24,213人	24,000人	100.9%	A	・導入の趣旨に沿った運用による迅速な情報提供の実施 ・ホームページやチラシによる周知 ※ R2年に開設されたため現状値(R元)を「-」とする	—	26,000人

※1 R4実績が最終目標を大きく上回ったことにより、R6以降目標値を再設定。【R6目標値】828万件⇒930万件、【R7目標値】845万件⇒950万件

※2 R4実績が最終目標を大きく上回ったことにより、R5以降目標値を再設定。【R5目標値】17,000人⇒24,000人、【R6目標値】19,000人⇒25,500人、【R7目標値】21,000人⇒26,000人

市による達成状況の総括 **概ね順調に進んでいる**

重要業績評価指標(KPI)4項目のうち、A評価(3事業)及びB評価(1事業)の合計は、4事業(100%)でした。
施策は概ね順調に進んでいます。

外部評価 **市による達成状況の総括は妥当です**

- すべての重要業績評価指標(KPI)が概ね順調に進んでいることを評価します。
- コロナ禍を機に、人々の生活様式や価値観が大きく変化しています。急速に進められているデジタル化を、秦野市での居住を選択するプラスの材料として活かし、移住・定住人口の増加につなげることを期待します。

1. 総合戦略の概要

2. 評価の趣旨及び方法

3. 具体的施策の評価

基本目標1 健康で安心して暮らせるプロジェクト

基本目標2 未来を拓く子育て・教育プロジェクト

基本目標3 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト

基本目標4 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト

基本目標5 新たな日常創造プロジェクト

横断プロジェクト 移住・定住活性化

4. 外部評価の総括

本市に多くの人の流れを呼び込むことが期待される基本目標3と基本目標4を組織横断的に進め、「住みたい」、「働きたい」、「何度でも行ってみたい」につながる「関係人口」を創出・拡大させることにより、地域経済の活性化を図るとともに、移住・定住人口の増加につなげます。

実現すべき成果に係る数値目標(KGI)



重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な事業の目的	現状値 (R元)	R4実績値	R5実績値 (A)	R5目標値 (B)	R5達成率 (A)／(B)	達成 状況	R5主な取り組み事業等	R5の取り組みが遅れている場合、その理由等	最終目標値 (R7)
住宅施策を活用した年間移住世帯数	若年世帯等への住宅購入補助、既存施策と連携した移住・定住希望者への積極的な情報提供等により、人口減少の抑制を図る	4世帯 ※	75世帯	199世帯	115世帯	173.0%	A	・はだの丹沢ライフ応援事業の周知、運用 ・ミライエ秦野の入居者募集、運用 ・空家バンクの運用 ※ R4～R6の期間で「はだの丹沢ライフ応援事業」を実施しているためR元及びR7目標値に当該事業の実績等が含まれない	—	15世帯 ※

市による達成状況の総括 **順調に進んでいる**

重要業績評価指標(KPI)1項目の令和5年度の実績は目標を大きく上回っており、施策は順調に進んでいます。

外部評価 **市による達成状況の総括は妥当です**

- 令和4年度から開始した新たな住宅施策による効果が表れていることを高く評価します。
- 移住・定住活性化に向け、秦野市の「田舎暮らしの素朴さと、都会的な便利さを併せ持ったまち」という魅力を、市内外に効果的に発信することが重要です。

1. 総合戦略の概要

2. 評価の趣旨及び方法

3. 具体的施策の評価

基本目標1 健康で安心して暮らせるプロジェクト

基本目標2 未来を拓く子育て・教育プロジェクト

基本目標3 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト

基本目標4 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト

基本目標5 新たな日常創造プロジェクト

横断プロジェクト 移住・定住活性化

4. 外部評価の総括

令和7年2月 日()に、秦野市行財政調査会から、令和5(2023)年度外部評価として、次のとおり市長への報告がありました。

5つの基本目標と1つの横断プロジェクトの達成状況に対する市の総括は妥当であり、特に、人口の社会増を目的とした「移住・定住施策」や「子育て・教育施策」、「観光客の誘客」に関する指標が良好に推移していることを評価します。

一方、目標に対して遅れが見られる項目のうち、「水とみどりを育む取組みの推進」、「人生100年時代の健康長寿に向けた取組みの推進」及び「地域特性を生かした企業誘致の推進」では、事業の周知等に課題が生じているため、必要な見直しを行った上で、目標の達成に向けた取組みを推進することが望まれます。

重要業績評価指標(KPI)は、施策の進ちょく状況を客観的に評価し、本来の目的や最終的な目標(KGI)の達成に向けて進行管理を行うためのツールです。そのため、各施策の成果がKGIの達成に寄与しているか等、KGIとKPIの関係性を常に意識し、毎年度の効果検証を踏まえたKPIの見直しなどを行いながら、KGIの達成に向けた適切な目標設定と進行管理に継続的に取り組むことが重要です。

当調査会の指摘を参考とし、今後も第2期総合戦略及び総合計画前期基本計画に掲げた基本目標(リーディングプロジェクト)の達成と、目指す都市像「水とみどりに育まれ 誰もが輝く暮らしよい都市(まち)」の実現に向けた施策の着実な推進に取り組まれることを期待します。